

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	市長公室		
	課名	企画政策課		
	係名	政策推進係		
	記入者		電話(内線)	227

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	駅南中央通り活性化事業(地方創生)				(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ			(6) 事業主体		民間			
① 事業の区分	主要事業			(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)		
② 施策コード	51103	(総合計画掲載ページ)			会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	5協働で進める持続可能なまちの実現(自治・行財政運営)		財源区分		国庫補助			
基本施策	5-1市民・企業・行政がともに支えあう体制づくり(市民参加・広聴広報・コミュニティ・ボランティア)		予算科目		款	項	目	
施策	①協働のまちづくりの推進		予算書上の					
施策内容	3市民が行うまちづくり活動の支援		事業名称		(予算書ページに掲載)			
(5) 事業期間	開始		年	月から	(8) 事務分類			
	終了		年	月まで(力年)	根拠法令			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)
地方創生推進交付金を活用し、駅南中央通り周辺地区の活性化を図る。対象は明るい協働のまちづくりイルミネーション実行委員会に対しての補助となるが、当該地区全体のまちの活性化に対する事業となる。	イルミネーションを延伸し、人を呼び込むとともに、賑わい創出活動により地域活性化を図る。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
冬季に結城駅南口で実施しているイルミネーションの延伸	事業主体である明るい協働のまちづくりイルミネーション実行委員会から交付金事業として国に採択して欲しい旨提案があったため。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
初年度のため、今年度以降反応を見極める。また、事業効果の検証が義務付けられているため、自走できない場合は事業終了となる。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映							
実施計画													
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）							
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度			
(1) 事務事業費の コスト	事業費	負担金補助及び交付金		2,000									
	合計				2,000								
	財源	国庫支出金 (千円)				1,000							
		県支出金 (千円)											
		地方債 (千円)											
		その他特定財源 (千円)				1,000							
		一般財源 (千円)											
合計 (千円)				2,000									
補助・起債制度名				地方創生推進交付金									

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	イルミネーション総延長	目標値	m		270	670	1,170		
		実績(見込)値			50				
		目標値							
		実績(見込)値							
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	協賛店舗数	目標値	点		15	30	50		
		実績(見込)値			15				
		達成率		%	%				
		目標値							
		実績(見込)値							
		達成率	%	%					
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	B	どちらとも言えない	商店の活性化, 稼ぐ力の創出の呼び水としては適している。					
妥当性	実施主体の妥当性	B	どちらとも言えない	民間提案で行う事業で適当である。					
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	今後検証すべき事項である。					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	市の財政出動はないので効率は良い。					
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	対象は一部の地区に限定されるが, 誘客の対象は広いためどちらともいえない。					
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	次年度以降検証が必要である。					
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	初年度につきどちらともいえない。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		現状のまま継続 (改善・改革なし)			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		現状のまま継続 (改善・改革なし)			事業成果, 交付金の状況等を勘案しながら事業を進める。				
(3) 最終評価 企画調整会議において 評価を行う					上記評価のとおり。				